

クラブ・コンシエルジュの

留学支援サービスが本格始動しています

スイスのインターナショナルスクールで国際感覚を育む

お子さまを「ブリアモン・インターナショナル・スクール」に通わせる会員さまにお話をうかがいました



「ごく普通の娘です。個性を磨くことで大きく成長できました」と、5年前12歳(当時)の次女をスイス留学させた浅野令子さんは目を細められました。お嬢さまは、今では優秀な成績で飛び級をし、英語だけでなくフランス語も話し、世界各地の友人達と物怖じすることなく付き合っています。大学進路も自分でじっくり考えたいそうです。

「考える力を付けることができたのは、優れた先生達による授業の質の高さゆえ。全力投球で教える先生達の熱意と能力に敬服しました。暗記中心の日本の教育とは基本が違います」

17歳で米留留学の経験を持つ令子さんは、二人の娘にはもっと早い時期から国際的な教育を身に付けさせたいと留学を勧めると、冒険心溢れる次女の世梨奈さんは強い興味を示しました。

「主人も最初は驚いていましたが、説得できました。私自身にとっても大きな決断でした」

堅実な風土と環境に恵まれ、スイスの伝統と実績を誇る地元経営の家庭的な雰囲気「ブリアモン」に入学、4年前には日本人は7人ほどでしたが、今では倍増しているということでした。

「少数で懐の深い教育方針です。山奥ではなく、湖畔の環境のいい町にある点も都会っ子の娘にはいいかと」

幸い世梨奈さんはホームシックになることもなく、令子さんがスイスに電話することもほとんどないとか。授業の進行も子供の成績もインターネットです。

勉強だけでなく、多様な文化の学友達との触れ合いは世梨奈さんの人格形成にも深みを与えているようです。

「タイでのボランテニアや子供による模擬国連など、単に教科だけではなく全人的な教育に基づいていて、人間としてのルールやマナーを学べたことや、世界中に繋がりを築くことができただ点も素晴らしいと思います」と語る令子さん。

パシエ校長先生は、世界中にいる同窓生を訪ねて回っておられるとのこと、昨年は日本も2回訪問をされています。子供だけでなく親も集って親交を深められるそう。家族ぐるみの将来にわたる深い繋がりは、一生の財産だと言えそうです。

クラブ・コンシエルジュは、大切なお子さまのスイス海外留学をサポートします。

